

登録番号：10548

演題番号：P78-1

「自立生活支援における見守りの援助 ～訪問作業療法士兼介護福祉士の一人二役で見えてきたこと～」

【はじめに】

ともに行う訪問介護事業所(以下,TH)では,自立支援,QOL向上に資する見守りの援助を提供している.今回の報告に際し,利用者A氏から口頭,文書にて同意を得た.

【利用者A氏の紹介】

THが連携しているなめだリハビリテーションクリニック(以下,NC)の訪問リ利用者70歳代独居男性.要介護2.X年の右橈骨骨折術後の右手指拘縮,右手関節痛.記憶障害等の高次脳機能障害あり.X+0.5年から訪問リ開始.X+2年に"きんぴらごぼうを自分で作りたい"とA氏の希望がありケアマネジャーを介し,NCとの生活機能向上連携加算で身体介護2,30分以上60分未満の共に行う調理が開始となり,OTがリとケアを一人二役で担った.

【リとケアの連携,結果】

包丁のグリップ方法,手関節痛の有無,調理手順,調味料の分量,食材管理等で高次脳機能障害にも配慮した声かけと見守りの方法を,リとケアの両方の視点で検証できた.X+2.5年の現在は共に行う調理での作業記憶を想起し,A氏自ら調理することが増え,メニューの幅が広がっている.

【考察】

一人二役により,訪問リでは心身機能に比重を置きつつA氏の生活課題と潜在的なニーズを抽出し,ケアではリのアセスメントを踏まえ調理の具体的な支援に反映,更新しながら継続できている.THでは担い手を育成して,OTから介護福祉士へ役割を移行し自立生活支援を推進していく.